



アサヒ飲料富士山工場からみた富士山



工場見学記念撮影

令和元年7月「はつらつネットふじのくに」会員事業で、「アサヒ飲料富士山工場見学と深良用水・芦ノ湖畔ウォーク」が、開催されました。

会員84名を乗せた3台のバスは、富士山の麓である富士宮市北山にある「アサヒ飲料富士山工場」に到着し、豊かな自然環境の中、ミネラルを含んだ良質な水が豊富に得られる環境を活かして次々と生産ラインから流れていくボトル飲料水(十六茶・三ツ矢サイダー・アサヒおいしい水)の製造工程を見学させていただきました。

### 富士宮市から裾野市へ移動



裾野市内昼食会場

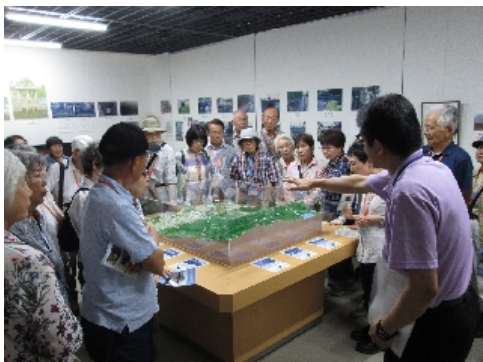


昼食の団欒

このあとは勇気と英知によって築かれた世界灌漑施設遺産、全国疏水百選「深良用水」の研修が始まります。

研修前に、市内での昼食を済ませた一行は、裾野市民文化センターに向かいます。

### 世界灌漑施設遺産「深良用水」研修



裾野市深良用水資料館

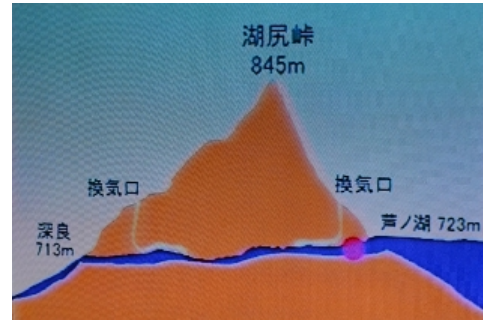


深良用水ビデオ鑑賞風景

寛文10年(1670年)徳川家綱の時代に、深良村名主 大庭源之丞が、水田開発の経験を持つ江戸の商人友野与右衛門らの協力を得て、芦ノ湖の水を駿河の国深良村他28カ村の圃場に導こうと、箱根外輪山 湖尻峠の下を水路トンネル(深良用水隧道)で導水する計画をたて、工事費約7,300両、延べ83万人の作業員を投入して3年半の歳月を要し完成させました。



[深良用水航空写真](#)



[隧道断面図](#)

芦ノ湖側と深良川の両側からノミを使い手掘りのみで、しかも照明は菜種油を灯した僅かなあかりのみで掘削を開始しましたが、合流地点の高低差は僅か1m程度で当時でも高度な測量技術が存在していたものとうかがえます。

芦ノ湖側取水口から深良側隧道出口までの距離は、1,280mあり、高低差は9.8mと比較的緩やかな勾配となっています。



[芦ノ湖早川水門\(逆川水門\)](#)



[芦ノ湖畔ウォーキング\(片道1.5km\)](#)

バスは、乙女峠・仙石原を通り芦ノ湖湖尻キャンプ場湖畔の駐車場に到着しました。一行はキャンプ場から早川水門を通り目的地である深良水門を目指し、道脇に咲き誇る草花や遠方に見える大涌谷の景観を楽しみながら片道1.5kmの道のりを進んでいきます。

芦ノ湖(神奈川県)には、深良水門の他に湖水東側湖尻に位置する早川水門(旧名:逆川水門)がありますが、水利権のある静岡県深良水門にしか水は流れていません。早川水門は、芦ノ湖増水時に水位調整として使用されています。

※なお、芦ノ湖の水利権を巡って神奈川県仙石原住民と、静岡県深良住民との間で争いが起きたのが「逆川事件」であります。明治29年に横浜地裁で3審まで争ってきた裁判の判決が下り、芦ノ湖の器は神奈川県側とし、水利権については静岡県側との判決が下って現在に至っています。



[芦ノ湖深良水門\(四ッ留水門\)](#)



[裾野市役所職員による説明](#)

深良用水芦ノ湖水門(四ッ留水門)に着いた一行は、裾野市役所職員の八木さんから江戸時代の測量や隧道掘削技術、深良用水の維持管理についての説明を聞き、世界灌漑施設遺産・全国疏水百選「深良用水」の知識を更に深めることができました。



[芦ノ湖側給水口水路](#)



[裾野市深良地区隧道出口](#)

芦ノ湖水門取水口から約100mある水路の先には、江戸時代 手ノミで掘られた隧道入口が見えます。1280mの隧道を通り抜けた灌漑用水は、隧道出口から箱根外輪山湖尻峠を下り静岡県側に流れていきます。

(深良用水写真は、裾野市深良用水資料館所蔵)



[深良用水で育つ水稻\(深良地区圃場\)](#)



[芦ノ湖深良水門横にて参加者記念撮影](#)

先人の偉大な努力により現在も裾野市・長泉町・清水町の稲作はすくすくと立派に育っており、黄金の稲穂が頭を垂れるのもまじかとのことです。

富士山の恩恵を肌で感じる工場見学と、歴史的世界灌漑施設遺産の旅を巡ってくださった「はつらつネットふじのくに」会員の皆様、一日の研修旅行お疲れ様でした。

10月1日は、世界遺産「富士山」五合目 御庭・奥庭のトレッキング 及び山梨県富士山世界遺産センターの見学ツアーが「はつらつネットふじのくに」会員事業で企画されています。

この時期、真っ赤に熟れたコケモモの群落、真黄色く色づいたカラマツ林を見ながら森林限界のなだらかな道を進むと、遥か遠方には南アルプスや八ヶ岳、下方を見渡せば富士四湖(本栖湖・精進湖・西湖・河口湖)の絶景を観ることが出来ます。紅葉を楽しむ絶好の季節ですので皆様のご参加をお待ちしております。

取材:富士・富士宮・北駿地区担当 生きがい特派員 渡邊英機